

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』
第1部第6章の概要（1）

メタデータ	言語: ja 出版者: 東京海洋大学 公開日: 2024-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大島, 由紀夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2000060

[資料]

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』

第1部第6章の概要（1）

(126.1~148.32)

大島由紀夫*

(Accepted December 12, 2023)

A Japanese Summary of James Joyce's *Finnegans Wake* I.6 (1) (126.1~148.32)

Yukio OSHIMA

Abstract: I translated into Japanese the first half of James Joyce's *Finnegans Wake* I.6 (126.1~148.32). In some parts I translated it word for word, but in other parts I just gave the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word 'summary' not 'translation.' The chapter I.6 is written in a questions-answers style. The questions are set by Shem and asked by 12 apostles, especially 4 masters. The respondent is Shaun, who sometimes changes himself into some other characters. In the front part, which I translated in this journal, their dialogue shows us the characters or personalities of HCE or ALP, the relationship between HCE and ALP, Issy's inner condition of mind or way of consideration, and so on.

Key words: *Finnegans Wake*, Part I.6, summary

それで？

紳士淑女の皆様、今晚はご機嫌いかが。

その反響音が森の奥のどこかから聞こえ、彼【ショーン】に前に出るように呼びかけている！

（エアウィッカーの息子たる郵便配達人のショーンは、ジョン・ジェイムソン・アンド・サン【ウィスキー会社】の会社のために、エアウィッカーの息子たる若者【シエム】が設定し、12人の使徒が出した、この夜の人物に関わる瑣末な問いに、120点満点で110点の成績を出した。その問いのうちの3番目に出された問いにおいて、彼はMをLと取り違え、彼ら自身が素晴らしい見事な混乱ぶりを見せる中、彼らのうちの4人の者に対して、率直な自然に湧き出た答えを示したのだ。）

1. 比類なき、いかなる神話的指導者が、いかなるマクシモス【イブセンの『皇帝とガリラヤ人』中のキリスト教と異教の橋渡しをした人物】的橋梁建設者が、ユーカリやバオバブや巨大なセコイアの木よりも高く、豆の木を伝

て最初に上昇したのか。この人物は、彼女がかろうじてたどたどしく流れていた時に、ズボンをはいたまま、裸足でリフィーへと入った。慰撫という帽子で、嘲りの対象であるエスカ【氷河底の流水によって出来た、砂や小石の堤防状の丘】のような彼の頭を覆い隠していることで有名になっていた。彼のオランダ人としての豊満さ【を持つ腹】の上に、一列に繋がれた囚人のようなアルバート型【ヴィクトリア女王の夫プリンス・アルバートが愛用していた型】の時計鎖を、もったいぶって垂れ下げ見せびらかしている。初めてつけた自分の衣服の垂れ飾りが落ちた時、ニュートンのような人物を偉大だと思った。昨日と明日との間の毎晩、【3人の】男たちと2人の女たちの間にいるあらゆる聖人君子【HCEを咎める人々】に、恥ずべき選択をさせた。衣服の色合いが連続している何人かの女の召使いたちを、1枚の客間用暖炉のための白い大きな敷物の上にはべらせた。異教徒としてヒースの荒野の中にいたが故に、今日まで家庭ではウィルバーフォース【18、9世紀の奴隷取引

* Professor Emeritus of Tokyo University of Marine Science and Technology (TUMSAT), 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan
(東京海洋大学名誉教授)

廃止を訴えた英国の国会議員】のような、力ある意志の人物になっている。カトリックという水を井戸から汲み出し、プロテスタントという桶にぶちかました。若い頃怒りの中で、自己のハングリー精神を殺してしまった。すべての野の水かさが増し洪水となった時、5人分の【自分、妻、3人の子供】食べ物を見出した。アイルランドの個人教師とともに、コーンウォール語【ケルト語の1種】を普及させた。(127)回転する車のあるものに【通行】証明書を出し、道路通行料の取り立てを行なった。お跳ねである実の1人の娘のために、まま息子を頭数多く養育した。魚にもなれないほどにあまりに滑稽であり、昆虫にもなれないほどにあまりにアウトサイダーとしての面を持っている。我々にとって、真実と虚偽から成る、7面体の結晶のプリズムのようである。体を覆うものとして不似合いなものを身につけ、限りなく【背中を】膨らませている。かつて彼は土中に投げ込まれ、かつて彼は火をつけられ、かつて彼は水に浸され、そして彼女はビル・ベイリー【1902年に出版されたアメリカのポピュラー・ソング *Bill Bailey, Won't You Please Come Home?* 中の人物】に対するように、彼に辛く当たった。今が何時だか鐘つき人に分らせるために、その帽子の中に4分儀【天体の高度などの測定用の昔の観測機械】を入れている。【アウトにするための守備する】機会をロングオン【クリケットの守備位置、ペニスの意味にもなる】の野手に与えるけれども、レッグ・ビフォア・ウィケット【クリケットでウィケットに当たらないようにボールを足で止める反則行為】をする打者には立ち向かう。馬鍬の突端に石炭を見つけ、人目につかない場所でモスバラ【園芸バラの1品種】を見つけた。尻から尻をひり、バックルに「女は汝を零落させる」と書いた。あらゆる隠れ家からの逃亡者の長である。ヘロデ王を越える自分の残虐的性質の方が自分に吠え猛る者たちよりも勝っている場合、この温室育ちの者たちに然るべく行動を起こす。3人のドイツ兵がちょっと姿を現しただけで立ち退き、2回ならず者のスウェーデン人に攻囲された。動物形態学の論者から全人間動物説の論者までにわたる人物として、コイン投げによる決定を飾り物としている【アイルランドの硬貨には動物の図柄が施されている】。光のない世界において、エディストーンの塔【コーンウォールにある灯台】として、陽光を深淵に注いでいる。男の悪徳金融業者には雷のような脅威を与え、女の衣擦れの音には囁き声を送る。背中曲がった公爵が愚か者たちを一喝すると、悪意あるヤジ將軍たちは嘲り大騒ぎするが、彼がルーク・プランケット【ダブリンのアマチュアの俳優。リチャード3世の死をコミカルに演じた】のような姿になると、彼らは彼をやじり倒し、彼の腐肉に接吻を送る。何らかのSOSを受けて、この都市に住むある婦人の捜索隊に加わる。用を足す、新聞を読む、煙草を吸う、テーブルの上のタンブラーを整える、食事をする、楽しみ事をする、などなど、などなど、楽しみ事をする、食事をする、テーブルの上の

タンブラーを整える、煙草を吸う、新聞を読む、用を足す。ミネラルウォーター、洗濯と身繕い、地元の新聞の意見欄、ナツメのタフィー、漫画、パースデーカード。こういったことが、日常だったのであり、彼は彼らの尊敬の的であった。ピンク色の日没時の夕立、赤粘土色の雲、サラ【旧約聖書中の人物。アブラハムの妻】の悲しみの元、アイルランドからの難民。罪状認否を問われ告発され、リストに載せられ訴訟を起こされ、弁護され立証された。イングランド銀行では小切手を現金化し、礼拝堂の出口では自分の破滅を裏書きしている。フランク族の頭脳、キリスト教徒の手、北方民族の舌。ディナーに招待し、相手の手の内を見透かしてバケの皮を剥がす。朝には器官に障害を起こし、昼食後には頭痛を起こしている。真剣な時には枢密顧問官を演ずるが、快活な時には厚かましさがなくなる。ホース岬まで歩いて行き、彼自身がクズの「ザ・お尻」であるかのように、そこでゆったりと座った。昔のイギリス人のトレードマークを示しており、金箔を被せた明かりが数多くある車輪窓、ミリオスコープ【一種の万華鏡】、2つの目を引く聖水廃棄盤、3つの見る価値が十分にある聖器棚がある。アーチ門はすべて落とし格子で、その身廊は古い時代に遡る。(128)止まることのない測時器であり、あらゆる時鐘の中のビッグ・ベンである。存在した、存在している、存在するであろう、そして彼はほうどん粉病にかかっているのに、大酒飲みとなっている。森の中では檜の木だが、都市の中では凡人の一員。山のように巨大な力を持ち、ファウヌス【ローマ神話中の半人半羊の牧神】並みのスピードで逃げる足の持ち主。政策綱領の主要項目、偵察隊の標的。数々の耕作地において、彼は貴族として列挙され、伯爵として思いやりがあるとみなされている。大仰に見える単語を使いながら整然とした言葉遣いをし、草食主義者が安らかな瞬間を覚える時【排便時】のような表現形式を使う。彼は死の運命に我々を至らせる法をもたらし、我々の屋敷を集めて自分の村を作った。常時地下まで緑化し、焼け付くような喉を潤すための水道橋を作る。彼が二酸化炭素を放出すると、靴下をはいた少年たちにゼーゼーという咳が起こり、彼がその上で半ズボンを緩めると、絹の靴下は彼女【の足】の形状を露わにする。病人のために乾いた粉を蓄えてやり、すべてのペイル【12世紀以降英国人が征服、定住した東部地域】と呼ばれたアイルランド東部の住民のために弾丸を拾い上げておく。ミゼリウス【*miserius* はラテン語で、「より一層悲惨な」の意味】に洗足式を施し、アンナ・リヴィアには困難をもたらし、チェリジアとチェロジア【ラテン語の *ceresia* は「サクランボ」の意味】には卓越した腕前でお下げ髪にしてやり、ティティウスとカイウスとセンプロニウス【3名ともシェイクスピアの『タイタス・アンドロニカス』中の登場人物が基となっている】には「何を笑っているのか」という文句を与えた。店の主人のことがまるっきり分かっていないあの男に、あの紳士を演じるよりもむしろあの公爵【ウェリ

ントン】を演じたいと感じさせた。駒を動かすゲーム【チェス】に勝利した時、2人のあばずれの女王【クイーンはチェスの駒】を手込めにし、3人の無駄口を叩く城兵【チェスの駒の1つのルークは城の形】たちを震え上がらせた。ストロンボリ島の火山のように内部に煙を燻らせ、ついにはタバコを両端から吸う。男は彼を誇らなければならない、女は彼を憐れまなければならない。彼の冠の周りのハリエンシダの茂みに、白い雪が1か所留まっており、悔悟を表すシャブロン【15世紀のターバンのような頭巾】には血溜まりができています【処女との性交の後のコンドームのイメージ】。立ち止まりと安息、3倍の勘定【買春】。警察に行こうとしたが警察の前を通り過ぎ、そしてまた通り過ぎた。詮索者たちよ、オイ！ 待てよ、あれを探し求めているんだろ！ それまで汚濁で満たされていたが、最後は死が食い尽くした人物。白ワインが最初に出てきて、次にココアが出てくる中、研磨剂的人物はチャンピオンフラッグを目指している【競馬】。この熊公のペニスの通過者たち【子供たち】は、彼自身が指揮するオーケストラの伴奏に合わせて、昼間からダンスをすることができる。カトリック教徒の助産婦の国際大会を前にしてはその場にいたが、世界的災害についての研究大会を前にしては代理人がいた。美味なメイン料理を作るが、デザートとセイボリー料理【食前食後の塩味の料理】との間でコースを終える。予言を馬鹿にするが、掘り出し物やら屋外催事場での乱闘騒ぎの面白さには目がない。365人の役立たずを追い出し、男子を持つために、鶏の女の世話係を相手にする、まさに1人のインド人船員を座につけた。物惜しみしない、欲の深い、過越祭で使う火の点火者。我々が彼の侵入を許したがゆえに、彼は我々の侵入を禁じている。不死鳥が彼の火葬の薪となるであろう、そしてその灰が彼の父親となるであろう！ ヘラクラスの柱【ジブラルタル海峡の東側に海峡を挟んで聳える2つの岩山】のように、大きなペリオン山が【ギリシャ中東部の山。1547m】小さなオサ山【ペリオン山と連なる山。1978m】の上に積み重なっている。(129) 我々の心を消耗させるエディプス・コンプレックスの持ち主で、オリまで飲み干す変態的国王である。カモになる者にはソーセージと肉を、下司野郎にはカーロー州の牛を。我々の好意を得ようと彼が熱心になる時は、手紙で敬具と書く時である。2件の精神的婚約と3件の遺棄。今となつては事実事項【証拠に基づいて真実性が判定されるべき陳述または主張】かもしれないが、当時処女の犯し手であった。元々肉の山であったカーモヒル【リムリック州にある輪状の土塁】は、ストレスによって築き上げられたが、緊張によって沈んでしまった。たんまりと飲み、最高に感謝して、この仕立て屋のことをスパイに告げろ。男には晴雨両用の傘を、しかし乙女にはただの指ぬきを。デブ、太っちゃよ。もはや話題にならないもの、旋律をドレミでしか歌わない。決まり文句、休止してしまう文。彼の「あそこが見える？」が立っている間は、女どもは陥落する。セルブ

リッジ【リフィー川沿いの村】で孵化したが、射出する教育を外国で受けた。ギネスをルーツとする家系で生を開始したように、バス【イギリス最大のビール会社】のボトルで終わりを迎えた。ロデリック、ロデリック、ロデリック、アア、お前もデーン人たちと同じ道を歩んだのだ。様々に分類され、定期的に再編成されている。ブッシュマンの休日、クエーカー教徒の交尾、淫婦たちの安息日。紅鮭が宙を切って諸君の方に飛んできた時のようにびっくりしてしまう、ずっと変わらずに人物として混合色の、ひよこになれない卵。感情の爆発は本物だが、伝達事項は虚偽。温泉気違いだ、酒場は健康。偽の人口調査によると50万人の人が街にいるが、孤児になっても【彼を】泊めてくれる人はいない。使い勝手がいい人物の中でも最も使い勝手がいい人物で、諸君の背中の瘤を捨てるには、極めてエレガントな場所である。自分の教会からの離脱を新しいパトリックたちに伝えはするが、忌まわしい過去の数世紀を支持している。ドアを開けて食べ【誰もが一緒に食事することができるように】、門を閉じて発情する。彼をロスチャイルドならぬロットシールド【腐った盾の意味】と称する人もいるが、ロックフェラーならぬロッキーフェロー【酔ってフラフラの奴の意味】と表現する人の方がもっと多い。2人の半分だけ美人の女性両方に、自分の社会の窓を見せるが、自分を付け回す3人の人間は撒こうとする。メリオン、ローバック【ダブリン南東の1地区名】、クロンスキ【ダブリン南部の1地区名】、シーポイント、ハウス岬の岸壁、アシュタウン、レイハニー、この7つの地区にある鳩小屋【売春宿？】が、このホームー的人物としての乙女の館であったと公言している。ローマの支配は認識しつつも、国王私財官の支配力から独立している。ドーナル【ドーナルは10世紀のレンスターの王】よ、ドーナルよ、あんたのアル中の療養院が最高に役に立っているのを我々は見た。ベルパエーゼ【イタリアのチーズ】のような悪臭を放ち、アイルランズ・アイ【ホース岬近くの小さな島】のように見える。様々なところに寝泊まりし、それだけ多くの権力支配を切り抜けてきた。週末の土曜日は安息日として日光浴を、日曜日には元気回復策として水と仮眠を。ステュールボール【クリケットの一種】で立派な試合をした後、あちこち彷徨って歩くのを楽しむ。大鴉【原文のNevermoreは、E. A. ポーの『大鴉』の中で大鴉の声を表す】が見逃したが、鳩が見つけたもの【旧約聖書の「ノアの方舟」の中で、「陸」を表す】。すべての人が自らのゴールキーパーならぬゴールドキーパーではあるが、アフリカはすべての黒人のためのものだとは彼は信じている。クリケットにおける放物線を描いた彼の強打は、優に40メートル飛んだ、そしてまた、彼が埋めたクリケットの柱は、80人がかりで引き抜かれた。どんなことがあっても、自分をアリア人の中で最古参の、活力に溢れた創造者であると誇りに思い、スイスの高台に住む裕福な住民のことを成金と呼んで見下している。彼の心、魂、精神はファラオの時

代に向かっているが、彼の愛、信仰、希望は未来志向から離れない。(130) 軽薄な好色家は以前から彼を、微笑を絶やさぬ人間と見ているが、一方気難しい者は彼を、徹底して不平を絶やさぬ人間としてののしっている。あなた方少年少女の中に、エデンの園を垣間見ている。人生の絶頂期には雀みがあり、人生の積み重ねからはネズミが出てくる。ぜんそくのために、タール水溶液とウォッカを飲み、恒常的な激痛を取り払うために、腐りにくいメス豚を食べている。乞食たちが【オコンネル像の】礎石の上で寝ている彼にマントをかぶせ、娼婦たちが溜まり場を歩いている時彼を起こしてウィンクする。クリスマスの日、新年を迎える土地の、降臨を迎えるロッジで、聖霊降臨祭を祝う東邦人の導師は、長患いをした後、要請しても随行人に伴われることもなく、全く個人的にファンファーレを奏した【放屁】。【彼は】栄光が彼(銃弾主義者のポール【ジョン・ポールは14世紀の農民一揆の指導者】として)を待ち受けている場所には行ったが、まだここ(店員のマックスウェル【J.C. マックスウェルは物理学者】のところ)には来ていない。年季奉公人として始まり、不死なる市民として終わった。棺台の上の大樽から、暗闇の中のビールを経て、草地におけるボトルへと至る。最高の地位の最高等級の人物ではあるが、根本的には粗雑な王である。すべてが行詰まった際には、ブルーベリーの蓄えを好んでたらふく食い、理性の使用を手にした時には、マグの中のホック【ドイツの白ワイン】で酔うようにした。栄養物を食べ、施し物を与え、田舎者をやつつけ、苦痛を長引かせる。植え付けるのに十分な種を持っているが、しかしこっそりと家政婦に言い寄っている。手を口の動きとして喋ることができるようになり、ついには目を閉じてもケルト語の会話ができた。hic haec hoc という初歩のラテン語を習うことで自分の道を切り開いたが、その後そのために首を吊ってしまった。ニュー・コメン橋は言うに及ばず、リアルト橋、アネスリー橋、ピンズ橋、ポールズ橋を彼は渡った【川であるALPとの交わり】。チリのほとんどない空間を通して、日光の白熱の輝きは、ボルンホルム島【バルト海中のデンマーク領の島】の悪徳の街の赤いレンガへと降り注ぎ、今やちょうどその色は、茶色へと変わったのだった。次のは彼の心を脅かそうとしていた。悲しみの元であるヘンルーダ【草の1種】の根、悲嘆【dule】を表すダルス【食用海藻】、破壊を表すワラビ、いじめを表すナベナ、毛織物の仕上げ工の遺灰を思わせるトネリコ、息子の涙を思わせるモウセンゴケ、強制徴募【press】を思わせるカラシナ。去ってから久しいが、いまだ忘れられていない。飢餓の激しい攻撃に耐えたが、ますます、ますます、ますますそれは増加した。彼はアメリカ合衆国に出現した24人ほどの従兄弟【Dublinという地名を持った場所のこと】を持っており、かつてのポーランド王国にイニシャルの異なる同名の人物【Lublinという場所】を1人持っている。彼の1番目は若い美人であり、2番目はフランス系エジプト人だ

が、全体的にはクリスティーズ【ロンドンの美術品のオークション】に出しても値がつかない代物である。彼の突き刺された箇所【アダムの肋骨のことだが、この場合は「第二のアダム」としてのキリストを2重写しにしている】から、水よりも濃い血を持ち、対外的な交易品の最後のものである、彼が夢見たあの女が出て来た。グレンダロッホの司教であり、ホースの伯爵である。諸君と私は彼の中で汚れたダブリンの茶色の建物に囲まれている。おそらくアイルランドの自由な港であろうが、常時【帝国主義が支配する】ホワン・チャン【Hwang Chengは、帝国都市の意味で、明と清王朝の北京市の一部】でもある。彼は中が空洞の喧嘩っ早い悪ガキの1人であったが、人生の最盛期の彼はけぶっている安煙草だと思え。(131) 過失の山と蜜の草原。2つの極めて重要な美德と、3つの主要な罪悪とを持っている。手帳には覗きのこと、大切にしているのは郵便船。パーソロミュー・ヴァナムリー、ベンジャミン・リー・ギネス、ピーター・ポール・マクスウィニー、T.D. サリヴァン、ヴァレンティン・ブレイク・ディロン、T.C. ハリントン、ローレンス・オニール【すべてダブリンの市長経験者】。運命を打ち壊すための朝食、肺病病み用の昼食、召使いの取る正餐、食べ物のためにプロテスタントに改宗したカトリック教徒の食べる夜食を取る。町中の景気が冷え込んでいたので、ティベレアリー【アイルランド中南部の州】を離れた。スケートのやり方を独学で学び、どうやって倒れたらよいかを修得した。明らかに汚い身なりだが、かなり愛着が感じられる人物。あらゆるところでリーダーとして努めていたが、殺人を伴っていた。高貴なるエフェンディ【トルコで上流階級の資産を持った教養人の官吏への尊称】たるヴァイキング、サージを着たパディシャー【オスマントルコの皇帝、イランの国王】。過剰なキスは、彼の居候状態を育む乳母車。フェニアン党員の先頭に立つ者、**怠け者の王**。スクーンの石【昔スコットランド王が即位の際に座った石】でできた彼の教皇冠【パーネルを暗示】は不滅のものではあるが、結局はただ1つのファールの石【古代アイルランド王がその上で戴冠し、その際喜びの声を上げたと言われる石。ここではパーネルを失脚させたグラッドストーンを暗示】が、ウェスト・ミンスターで彼を破滅させてしまった。その座を追われた時、熱くなって我々をののしり、我々の秘匿事項を表に出して、ブダペストからの感染症がもたらしたような戦慄すべき苦境に我々を至らしめた。マッチの先っぽをポプラの木の幹につけ、生きているものに火をつけた。避雷針を惜しみ、雷で台無しにした。ケーキを伴って結婚しながら、売春婦と再び楽しい思いをした。埋葬されるまで彼は大変合わせで、**頑張れ、ミコーバー!**【『デイヴィッド・コパフィールド』中の楽天的人物】という大声を空に響かせていた。階段の最上階における神、寝わらの上の腐肉。蜘蛛の糸という偽りの覆面が、彼の醜悪さという洞窟の入り口を塞いでいる【蜘蛛の巣が張ってあるのを見て、兵士たちが誰もいない

と考え、ムハンマドの隠れている洞窟を調べずに通り過ぎたという伝説がある】が、彼の葉陰に隠れて生きているひな鳥たちは、このイワツツジを愛する者【My love's an Arbutus という名の歌がある】としての彼に謳歌を送っている。血の付いた彼の戦いのあとのシーツ【の処理】に関しては、我々は手を取り合って協力するだけだが、あの緑のマント【前文で彼がその葉蔭で子供たちを育てているイワツツジのこと】については、完全に【処理を】誓約させられている。我々の友である総督、我々の不倶戴天の敵。祝宴の大きな酒杯を消滅させた川の流れのそばの4つの石の下にいる【古代スコットランド人は、墓の4隅に石を置いた】。モラとロラ【マクファーソンの『オシアン』に出てくる丘の名前】は長い時間愉快そうに彼の混乱ぶりを見下ろし、ついには戦闘の用意や前に突き出た槍を凝視し、そして戦闘の狂気に包まれた風の歩みによって、レゴ湖の霧は広まり、彼の最後の戦場を覆った。服喪の1年間、人並み以上の失敗者であるあなたのお陰で我々は陰鬱な気分になっていたが、小川のように流れる朝の光が仕合せの源を呼び起こすなら、この薄暗く輝いている人物に共鳴するだろう。彼の縞模様のダブダブズボン、彼のかなり奇妙な歩き方。遺産として受け継いだ屹立した彼の円柱、若き山羊の聖なる短上着。さしあたり居眠りをし、それが周囲に蔓延すると、誇らしげにサヨナラをする。点検して3/1が不適当な分数であるのなら、【2つの項、すなわちHCEと2人の少女は】インテグラル即ち完全性が排除された連立方程式だ。この上なく乱れた髪の上に乗った、最も滑稽な円錐形の彼のかぶり物、そして彼の無骨なあの顎を見ると、タイ国のあちこちにいる貧弱なカンガルーのようだ。彼はリチウムで出来た毒々しい赤みを帯びた色合いのガスメーターと同じくらいの球体であり、(132)リージェント・サーカスのあちこちをものがくように歩いていた時より数年前は、30倍も指輪状になっていた。丸太小屋たる彼の自宅での諸問題の対処の基石は、忠実な犬【を飼うこと】であるが、自分が最終的にどこまで至れるのか、大まかな正確性を持った認識に近づけるのはアメリカ人だけであろう。ブーターズタウンにおける真実への探求において、難問が様々に出されたが、最後カムデン通りで彼が行き合ったのは並みの答えであった【売春婦？】。終わることのない争いに巻き込まれているハンニバル、戻ってくるべきオットー【オットー1世は、初代神聖ローマ帝国皇帝。自殺した】。うだる山の上で、言い寄る波の中で、凍える風に向かって燃える身体。眠れる子供として我々は彼の中に入り、人生に苦闘する者として彼から出る。彼は衣服を奪って、溺死夫人たちからそのライバルの女王たちを救おうとしたが、その間に彼の盗んだ衣服を、グリムショーとブラグショーとレンショー【『グリムショーとブラグショーとレンショー』は劇名】が持ち去ってしまった。課税され、査定され、営業許可書を与えられ、毒づかれた。彼の岩石に掘られた3面の頭はホワイトホース・ヒル【イギリスの

アフィントンにある、地上に白馬が描かれている丘。元来デーモン人に対するアルフレッド王の勝利を祝して描かれたとされる】に見出されたのであり、星を散りばめたような【できもの？】彼の足の足型は、山羊のいる円形の草地に見られる。目の見えない者の手を引き、耳の聞こえない者を導き、口のきけない者、足を引きずっている者、立ち止まっている者に声をかける。偉大な奇跡、怪物としての小鳥。天地創造に率先して拍手を送り、誘惑者たる蛇をシツシツと威嚇し、彼女のいるところから追い出した。追われる者は獵師となり、獵師は狐【獵師とはパーネルのこと】となる。侵略者、既婚者、獵犬、沈黙者。牛男のオラフ【ダブリンの初代王】、厄介者のトール【北欧神話の神】。諸君は彼のことをウェスパシアヌス帝【内乱を鎮め、新王朝を築いたローマ皇帝】と感じるだろうが、彼のことをアウレリウス帝【遠征により国力を衰退させたローマ皇帝】と思うだろう。スコットランドのホイッグ黨員、裏切り者、社会主義者、共産主義者。我々の国を夏に襲撃し、そのことに目が眩むほどに忙殺されている。まずラグラン・ロードを撃ち落とし、次にマールボロ・プレイスを八つ裂きにした。我らの無骨漢としての騙り屋が、彼のお気に入りルーバー川へと勝手気ままに垂れ流す時は【立った状態での放尿のこと】、クロムリーチの高台とクロンマルの丘が有名な彼の足乗せ台であった。民の集会で先導的役割を果たしたが、主要な発言は制限していた。この魚は一口餌を食べる前に網にかけられ、体重計の目盛りを動かすことはほとんどできないが、食事の後で巨大化し、彼自身1トンの目方にまでなる。アイルランドは彼の転向を願ひ求め、英国はあの昔からの凶太い声を聞けなくて残念に思った【グラッドストーンを暗示】。幾多のキャベツに囲まれた巨大な作物、幾多の果実の中のオレンジ風のシトロン。人の実人生よりもスケールが大きく、人が死に立ち向かう以上に勇敢である。トルコのサルタン、【生活の糧である】大麦、小麦を生み出す。サーモンのように太っていて、ハンセン氏病患者のように痩せている。彼の穏やかな空想の閃光、彼の落ち着きのある明敏さの深さ、非の打ち所のない彼の名誉の明晰性、限りのない彼の慈悲心の流れ。我が家族の先祖、我が一族の通行の障害物たる門。何故彼は無敵だったのか、何故彼は犬に吠えられたのか。分割されたアイルランド人、統合されたアイルランド人。彼は自分の持っているワインをガブ飲みしたが、彼女はビターを少しばかり試してみた、そしてサーモンといえば、彼は一生涯かけて、遡上してその中に入っていった【サケは知識の象徴】。来い、急いで、ハックルベリーよ、そして待て、お前、ソーヤよ。(133)コステロよ、キンセラよ、マホニーよ、モランよ、蜜を吸っているミツバチのように沈黙せよ、ホース岬の大気の呼吸のように強靱になれ。君たちがアメリカをうろついても、君たちの国の支配者はダン【オCONNELL】なのだ。右の図では毛むくじらの首のその首筋で引き上げられ【絞首刑のイメージ？】、左の

図では仲間内で、同重体の小さなパイを分け与えられている【人肉喰い?】。彼は毒を盛られたのかと問う人がいるが、どのくらいの量の毒を彼は残したのだろうかと思う人もいる。豊かな暮らしぶりの元庭師(クロコノシェ山脈【ポーランドの山脈】における)は、欲情をそそるバラをあしらった(子供用の)小さなズボンをよく作っていた。ピンと張った帆脚索と甲板の排水口が水に浸かっているが、油まみれの絹のような薄汚いエビ取り用竹かごが、彼の雨合羽となっている。彼が売春婦に対してもった楽しさは、彼を呼び込んだ男に対して雇用を与えた。一団のピアス派の者たちの後援者であり、一群のローリー派の者たちの支持者【パース・オライリーをもじっている】。次のものに対抗している、雷、爆発、火事、地震、洪水、竜巻、強盗、第3者、腐敗、現金紛失、信用喪失、自動車の影響。オクステールスープ【牛の尾を使ったスープ】の味のごとく重々しい大言壮語を口にし、ポートワインを飲んだお調子者のごとく陽気に喋ることができる。臆せずユニオニズムを説くが、偏狭頑迷なナショナリストでもある。人の住む森林は彼のことを恥ずかしく思っており、船員たちのズボンは彼の冗談を侮蔑している。ダンスに入れられたかのように秘められた彼の戦争への思いの中には、平和を強く支えようとする気持ちが見られる。939年間の膳本土土地保有権【領主の意志、及び領地の慣習によって認められた、イギリスの中世から近代にかけての農奴的な土地保有の権利】を有している。ヤヌス【ローマ神話中の戸口の守護神】への愛のために時々閉じられていない時があり、その時には常に戦争中の市民のために開かれている。ユダヤ人のペチコート姿の不細工な女から生命の霊薬を吸い込んでおり、ローマ教皇たち【カトリック教徒】がユグノーたちを圧倒しているならば、不機嫌な気分であらう。ボナパルト、ウェルズリー、超大元帥、ブリュッヒャー、超人的進撃者【superchargerは本来、与圧装置】、ムシュー・ダクロウ【イギリスの曲馬師】、マドソン氏【アダムのこと】、庭師氏【アダムのこと】。彼は単なるパンチとジュディー【イギリスの滑稽な人形劇名、及びその登場人物名】という人もいれば、活力に溢れた裁判官という人もいる。幻影、悪夢、霊媒の心霊体。くくくく黒毛の厄介者の羊として世間に通っていたが、最後にはウウウールの服を着た、まともな白毛の羊になった。マック・ミリガンの娘【アリス・ミリガンは、アイルランドのケルト復興運動の作家兼活動家】によってドラマ化され、シューベルトのような人物によって音楽化された。司令官たるフィッツパトリック【アイルランドの過去の社会生活研究の権威】のような人々が皆彼のことを覚えており、ウェクスフォードの男の子たちが彼のことをお父ちゃんと呼んでいる。ブライアン・ボルー的賞賛を与えられる者と自分を認識していたが、公に刑務所送りとされてしまった。3箇所で光を与えられ、3箇所で墳墓に入った。彼の肖像はセラコッタ製品となっており、彼は多種多様な人々に安らぎを

与えている。酔い、泡での稼ぎ、資質【原文では自由、博愛、平等のもじり】。当然しなければならないことをして手柄顔をするのが彼の裏側であり、でっち上げによって母親のような保護者を傷つけるのが彼の表側である。舷縁を作るのに最高の腕前を持ち、馬車の屋根を作ること、留め紐を解くこと、張枠の釘を抜くことがそれに次ぐ腕前で、結局彼は巨匠なのだ。我々1人1人の心に訴えかけられない時には、国会を招集する。国王であり、高貴なる国王であり、王位継承者であり、小国の王である。デイ川の河口に入って立ち【聖パトリックを想起させる】、それからやみくもにダブリンへと戻った。(134)黄金峡か最果ての地かのどちらか。狂気と反目と情火の王、5軒のバブを這いつくばって梯子。自分たち一家の祖先を探し求めようと幾多の1ポンド札を並べ、その後厄介事を持ち込んだり、悪銭を叩いたりして、この下衆の祖先たちを隠そうとした。汗で濡れた肩越しに幸運を呼ぼうと小石をいくつか投げ、歯まで武装した軟弱な人々を武力で制圧した。ガウディオ・ガンブリヌス【ビールを最初に醸造したと言われているフランドルの王】のように活力があり、ピョートル大帝のように情け容赦しない。1の札の最高のハート、2の札のチンケなダイヤモンド、3の札の厄介なクラブ、4の札の恐ろしいスペード。邪魔者・厄介者のカンブロンヌ【ピエール・カンブロンヌはナポレオン戦争時の軍人】、売春宿の前の2人の可愛いナースたち、しかし3対1だと局面は一変。銀幕上のタイトルロールとしてフィルムのリールの中に、2人の少女と向かい合わせになって入っていたが、はるかに名義だけの登場人物、すなわちリック、デイヴ、バリーが亀背の人物として彼に取って代わったため、セットから消えてしまった。彼は3月22日という早い時期に【西方教会において、最も早く復活祭が祝われる可能性がある日】取り掛かることがあっても、フランス革命暦7月【4月のこと】25日【西方教会において、最も遅く復活祭が祝われる可能性がある日】になってもうまく終わらせていないことが時々ある。彼のインド人としての名前は「あらゆるところに赤ちゃんがいる」であり、数理哲学上での彼の数は、鋤についた星の数である【アイルランド反乱軍が掲げた旗は、鋤と星の模様】。通行料金所のある区域で武器を手にし、ハサミムシめがけては釣り糸を放った。ヴィーコの悪循環で動き、更新しても常に同じ状態である。排水溝のネズミは彼の腐肉を賞賛するが、一方公園の鳥は彼の投光照明を呪う。良きワイン、技量ある雌馬、耐火煉瓦、パース・オライリー。彼は柔らかい雰囲気に包まれたシェルボーンホテルに、ウォルトリング通り【原文のWaltling StreetはWall Street、即ちウォール街を連想させる】で手にした現金をつぎ込んでいる。彼の誕生が過失によるものであったことが判明したことは、彼の死がその誕生の重大な過失であったことを示している。若者の国【ケルト神話中の極楽とされたところ】から、巨大なツタ【巨大なツタが、フィンンの狩場とされる、ダブリン州南部のグレナズ

モール谷に繁茂している】を我々の元に持ってきたが、彼が激しい苛立ちを示しているので使徒たちは困惑した。柔和な若々しい輝く比類なき少女たちが、絹の服を着た喜びにあふれた澁刺とした若い女性に開花していくことには満足しているが、その一方で、鈍重な罰当たりな匂いのひどい不恰好な体軀の男が、行動的でハンサムで格好のよい率直な目の少年ではなくなることを、あまり喜ばしいことと思っていない。金髪のアラウド【アラウド・フェアヘアはノルウェーの初代国王】、白い手のオラフ【オラフ・ザ・ホワイトはダブリンの初代スカンジナビア人の国王】。お前の叔母の夫となれ【イズルデはトリスタンの叔母】、お前の甥に財産を与えよ。耳を傾けよ、しかし黙っていよ、彼を覆い隠しそして見よ。現在は大僧正の座にあり、過去は職人の入り口にいた。輝く小川は浅瀬を流れている、魚の鱗は平底船によって傷つけられている。日陰で最も貧弱な草むらの温度が3度だった間の、2人のロングブーツ【の女の子】が彼にとっての雨降りだった。雪【snowには麻薬の意味もある】の融解点、アルコール【違法のアルコールを含意】が沸騰する場所。売春婦とトラブルを起こし、自らを正当に扱っている。ハンフリーの『平和の正義』【Henry Humphreysが著した*The Justice of the Peace for Ireland*のこと】における終末論を扱った諸章であってこすられ、また『聴覚障害者の昆虫』【*The Book of the Dead*のもじり。ハサミムシ、すなわちHCEを連想】の背後に何かがあることを嗅ぎつけたテーベの監察官たちに追われている。(135)王はコーンウォールにいて、目立ってむっつりした表情をしていたが、妃は園庭にいて喜ばしく柔和な気持ちでいた、少女たちはサンザシの茂みの中にいて、そのストッキングをこれ見よがしにはいていた、悪童たちは【茂みの中を】覗き込み（派手な色だ!）、ポンプ速射銃を撃とうとしている【オナニー?】。彼の将来を予言した者全員に対して彼は石柱を建て、彼を甘言で誘う者全員に対しては木【絞首台を含意】を植えた。40 エーカー【の土地を持ち】、60 マイル【離れたところに住み】、白色系のストライプ【のに入った服を着】、赤色系のストライプ【のに入った服を着】、沼の水で足を洗う。彼はビールが恋しくてしかたがなかった、だから彼に何をさせたいのだろうか、というのも、彼はピムリコ通りに行きたかったのだが、彼らが彼を捕まえ法廷に立たせてしまったからだ。オランダの君主、オランダの王、我々を威圧する。王であり殉教者である山頂たる聖エドモンド、酔ったしつこい借金取りの東部の住民聖ダNSTAN【Saint Dunstan in-the-Eastは、ロンドンの教会名】、ペトリン丘【プラハで最も高い丘】の道化師聖ピーター・ル・ボア【1907年に取り壊されたロンドンにあった教会の名】、王立取引所近くの髭の大聖人バルトロマイ【セイント・バーソロミュー・パイ・ザ・エクステインジは19世紀にロンドンにあった教会の名前】。オラニエーナッサウ家【現在のオランダ王家】の王子のように、彼は婦人の忠実さと結婚式の人手

を急ぎ求めているが、器を持った乞食ビル・ザ・バストンリ【足のない乞食、殺人鬼】のように、3部分からなるパイ掃除器を置き忘れてきた。ハンバミの木が生えている崖と暗闇に水たまりのあるダブリン。ブロウィックをブロックに変え【ブロウィック Blowick はドルキーのそばの土地の名前であるブロック Bullock の旧名】、アルトワ【Artoisは北フランスの地方名】式井戸【掘抜きの自噴井戸】をアラビアの鳥【不死鳥の意味】に変える。顔という壁に落書き、その表情を見ると、貝のように閉じられた管状の口には隠し事がある。彼の誕生地は、彼が英雄としての自発的行動をとったヘレスポントス海峡【現トルコのダーダネルス海峡、ギリシャ神話で、女女官ヘロが転落死したとされる海】を越えたところにあり、彼の埋葬地は心地よい小さな野原【ケルト語訳はGlaisin Aoithinnでありグラスネヴィンの墓地を思わせる】の中にある。この半島の中で最も古い簡易小屋、聖なる学者の国の中で最も新しい安宿。距離にして何百何十マイルも各通りを歩き、何ヘクタールにもわたる各窓に1001の常夜灯の火を灯した。彼の大きめの幅広の外套【オコンネルを連想】は15エーカーにも広がり、彼の小さな白馬は【ウィリアム3世を連想】何十もの我々のドアの飾り物となっている。アア、アメリカ目指して備え付けられた悲しみの帆、嘆きの舵！彼の息子はフン族、彼の娘は韃靼人、今日ここに数多くいる。東国の雷光であり、毎回偃月刀型の閃光となる彼の怒りの爆発から追われた者たちは、海の深みにはまってしまう。人格的問題、位置的謎。高潔たる人物、その道の名工秘伝の伝授者、嘘をつく人物、ダブリンの衰退的路地を円環的に歩行する洪水的供給者。鯨港としての全体の一部。親愛なるホース城主、王室の侍従殿は我々の外出を喜び、ツツジの咲くダンドラムから、早くはない夏を後ろ向きに迎え待っている。果樹の種の浮く海面より上に、サヤを持った植物の限界生息領域【山】より外にいる。昔からの絆が昔からの心を固定する時、彼は彼女に似るであろう。膠とハサミで築くことができ、控壁【壁を安定化するための、その壁の裏側に付着させた柱状の補助壁】に落書きをすることもでき、消すこともできる。夜行急行列車は彼の物語を歌っている、電線の譜表にツバメたちが作る音符でできた歌を。彼はシラミとともにウヨウヨたむろし、司祭と群れる。(136)モスクのように静かな人間であるが、シナゴグのように騒がしい人間にもなりうる。その日々が輝かしい時はディルムン【古代メソポタミア文明と交易のあった地域の呼び名】に、オルガスムを感じた時にはダブリンにいた。海の水を飲み干し、屈託なく声を出して躍動する、大地に唇をつけ、胸の鼓動を伴いながら。彼の黒ビールは人の心に絶大なる支配力を持っており、彼のパン作り業は白パンの恩恵を受けている。風が乾かし、雨が侵食し、太陽が回り、水が跳ねる限り、彼は喜び、落胆し、人々のところへ集まり、人々から離れる。立ち去ると我々は失望し、戻ってくると気分を悪くする。島を穿ち、地獄を飛び越

え、洪水の中を泳ぎ、海の上を飛んだ。脂肪のようだ、脂肪のような獣脂のようだ、油に満ちた、ソウ、滴る油に満ちた獣脂のようだ。年寄りのくせに年寄りとは話さなかった、壊血病のくせに、壊血病患者とは話さなかった。彼は都市に家を築いた、その破滅を彼が自ら与えた家を彼は築いた。野鳩に怒鳴り散らすカラスを連れていく。彼の悪党ぶりが彼の周りにオーラを放つ時、彼の女性料理人にとって彼は、孔雀、蟻、猪、雄牛、駝鳥、マングース、スカンクに見えた。性急に生育したイラクサから古のビールを搾り取った。神のために天井を小屋に取りつけ、人類のために鍋に鶏肉を入れる。ウェイター、それからパン作りやサーカスのコンテスト参加者、それから高位聖職者兼庭師。彼の上に崩れ落ちてくる酒浸りの生活、彼からぐらついて落ちていく人間性の典型。未だ問題を引き起こし、未だ我々を困らせている。金銭目当ての小型の郵便船、鉄砲・火薬密輸入のヒーロー。ありし日の光、恐ろしげな荒涼たる暗闇。恐怖心を抱かせる我らの崇高なる父、韃靼人のチムール、不可解な、驚くべき、衝撃的な、イヤ、我々を不安にする人物。国王の治める町から喘ぎながら新しくできた税関へと向かい、背中から凸状部分を外し、あらゆる嘆きの橋【Bridge of Sigh はヴェニスにある、16世紀に架けられた橋。囚人がこの橋を渡って牢獄に連れて行かれた】へと向かった。彼は父親が新たに重量感を加え、父親の父親が新たに柄をつけ、父親の父親の父親の父親が我々に残した父親の父親の父親が所有していた古いカッタラス【昔船乗りが用いた、やや反り身で片刃の重い短剣】を持っていく。頭が若くても、肩が老いて首が中年じみている者は老けていった。毎日日中は新鮮なニシン、夜は夜通し膨れ上がったターポン【アメリカ大西洋沿岸、西インド諸島海域に住む大魚】。40個のパノック【大麦のパン】を糧とした生活を送ることで、内分泌の歴史を変えたカメレオンたるオリオン【ギリシャ神話中の巨漢で美男の漁師】を見よ。彼が彼女を視覚障害へと追いやるまで、彼女は彼を聴覚障害へと追いやる。鳩たちがある日の昼間、ボールズブリッジで彼の【像】一面に留まるだろう、次の日の夜黒いカラスたちが、後から、キングズタウン・ハーバーの裏側にある彼の【像】の上に黒いネットを投げかけるだろう。貯蔵庫は増大、個人生活は安楽、パブは繁栄。彼の足がとんでもなくひどい粘土とするならば、彼の頭は木でできており、理想的な偶像となる。フェニックス公園の真空地帯で石を舞い上がらせたように、この公園の空白地帯で木々をなぎ倒した。山の大岩のように見え、粗野な言葉のように聞こえる。(137)密造ウイスキー、その一部は沸騰している湯に入った一塊の砂糖の周りがあるレモンの皮のような味がする。黒ずんだ後背部めがけて1ペニーで3発発射。マコーマック・ニ・レイカシー嬢【コーマックの娘は、フィアナ伝説群の中の登場人物グラニャア。最後にディアミッドと駆け落ちする】に言い寄ったが、彼女は彼女の最愛の浅黒い顔のうぬぼれの強いディアミッド【フィンの甥】

と駆け落ちした。かつてはダイヤモンドカットされた柘榴石、今は切られて呻くダンマル【東南アジアでラワン属の木から取られる軟質の樹脂】。フィレンツェで見かけることがあるのかもしれないが、ウィンズホテルにいる時の彼には気をつけろ。彼の蝶ネクタイがあると、アルコール飲料やビールがある場合には、彼のための物静かな奥行きのある葬儀用馬車がある。スウェーデン系イギリス人、この土地で最も悪漢でありそうな人物。鳴声養鶏場—鶏卵生産のための利己主義的養雄鶏株式会社。我々はお茶を飲み、蚤たちを馬にまたがった悪魔の足の周りに解き放つ。ルンド【スウェーデンの都市、デー人カヌートが建設】の聖堂を建てたが、その聖堂のある国を滅ぼした。彼の称号が彼の行為を支配していると誰が思うだろうか。一人前にやけた男の肉料理とポテト、あかぎれに悩む厄介者のフィッシュ・アンド・チップス。狡猾なウェルズリー公爵。腹に衣服がピッタリくっついたハックルベリー・フィンの葬儀。愚か者のカリカック家【貴族と精神遅滞の女との結婚により、後の家系の一方に健全な人物、もう一方に精神的問題児を輩出したアメリカの一家の仮名】の者。判事の私室で密かに立ち聞きされ、苦しみ悩んだ。恵みの時は女の子をあてがわれた時、呪詛の時は背中を鹿弾【大粒の散弾】で粉碎された時。天上で命を得、混沌の中で汚れた胎児となり、地上で生まれた。彼の父親はおそらくそれを規定時間外まで深く掘って植え込み、彼の母親はともかくも公平に割り当てられた彼女の役割を果たしたに違いない。マガジン要塞にある中新世の足跡、リングセンド付近で落馬した帽子をかぶった軍司令官。即席の消防団の名誉ある大将で、警察と懇意にしているという噂である。そのドアは未だ開いている。昔のストックカラー【ピンと張った、ぴったりとした一種のネックチーフ】が復活しつつある。カルトウジオ修道会の年配者【HCE】のペキンアヒルのように白いズボンをあなたが嘲笑った時のことを、また町教区の人々は彼の毛むくじゃらの足を目にするのでできるとあなたが言った時のその言い方を、彼は忘れずにいる。キスを盗んで彼女がかじりついた彼の首筋の後方に、赤茶色の樹木状の彼女の髪がついていた。彼のメスどもの心が火傷するほどの熱さになった時、我らのテルシテス【『イリアド』の中で最も醜悪で意地悪く口汚い男】は華々しい偉業をやったのけた。彼の毎年1回の手紙は、評論の大家【シム】の手によって作り上げられたものであり、彼のホールマーク【貴金属品質証明刻印、この場合手紙の署名】は細工された貴金属の基準で押されている。脅威に感じるべき1対の胸飾り【2人の女子】と3重の防護物【3人の兵士】。松やにの付いた木を使ってパイプに火をつけ、靴を運搬するために2輪馬車を雇う。雑働きの女中の壊血病を治療し、男爵の腫れ物を破裂させる。ワニスを売るために訪問し、後に寝室で見出された。正義の座を持ち、慈愛の家を持ち、豊富なトウモロコシ【コーンウイスキーの原料】を持ち、ライ麦【ライウイスキーの原料】の

山を持つ。金の試掘者として彼はリュックサックを持っていた、過去追想者として彼はアルペンストックのような有用なる杭【土地を囲うための】を持っていた。結婚して奴隷状態にいる人たちに対する新たな軛を得る自由を得た。積極的に行動し、些事にこだわることには消極的になり、独善主義のゴルゴーン【ギリシャ神話中の頭髪がヘビで人を石に変える力を持った三姉妹の怪物】となっている。涙に値する少女に対する、笑いに値する自分についての好ましからざる情報を発している。美女が「壮大なる山」に向かって紡ぎ出した乙女らしい単一の話半分聞きながら(138)、それが天の音に至らんとするヘブライ語なのか、それとも4部音からなる音調の変化が激しい歌なのか考えながら、ただ1つしかない暖炉の脇で生涯すべてを過ごした。彼の3人に関わる苦悩は終わるかもしれないが、彼への2人に関わる疑惑は未だ帰着していない。我々の竜骨をはめて動けなくしたロブスター捕獲用壺、我らのスイトピーを踏みつけ台無しにした庭に出没する有害動物。彼は美しい公園の中に立っている、海は遠くない、X、Y、Zのような重要な町は、簡単に見過ごされてしまう。文明化した人間に対する無害の異常突出物、そしてヨーロッパにおける単なるイボ。音に関わる感覚に対して歌って合図を送りたいと思っているが、新たに作られた、実際複数あって追加も可能な、すべての肉となった言葉を得たいとも思っている。過度に大きな指輪を持っており、普通とは異なる香りを漂わせている。欲情に満ちたののしり声を上げながら、シュミーズの明瞭な囁き声を聞く。神聖な国アイルランドに住むフィン族のプリンス。彼を悩ます田舎者がおり、彼におべっかを使うフランス人がおり、彼に命令するベルギー人がおり、鞭で打って彼の頭を転換させるドイツ人がいる。拳銃によって待ち伏せされ、パークリーによって撃たれた。しゃっくりをしている時はヒラ豆の入った容器を蹴飛ばすが、度々小教区にいる哀れな浮浪児、宿無し子に「ジェイコブズ・ビスケット」【菓子製造業者】製のクズウコンのビスケットを投げてやる。H.C.エンデルセン【ハンス・クリスチャン・アンデルセンのこと】の呪文の言葉を夜何週間もずっと読んでおり、またイワン雷帝の犯罪書を、毎日曜の朝に読んでいる。面と向かってあなたにおべっかを使い、風呂に入っている時自らを打擲している。マランガー・インの人目につかない場所に、今までにコツコツとたたかれた中で最も大きく膨らんだ、栓のしてある樽を持っている。生まれつき口の中に弁舌さわやかな舌を持っていた、そして左手を海へと指し伸ばして【ブライアン・ボルが諸国を征服する意味で示した仕草】アイルランドの海岸を回った。2本の指だけを揚げた【法皇の祝福の仕草】が、その匂いで十分であった。あなたや私がアムステルダムで絶対禁酒主義者を見つけるよりも、彼がダブリンで性交してもらえぬ女を見つけ出すことの方が容易である。彼と一緒に住むことは悪夢であるが、彼を知ることは一般教養となる。聖なるオリーブオイルで洗礼を施され、

トイレの臭気の中で聖油を注がれた。地上においてコオロギの声に耳を傾けるが、説教師の声からは人生に対する苛立ちを覚える。ダレイオス【アケメネス朝ペルシャ王】の難聴の耳を、今や限りなく激怒し、顔が青ざめている神に向けさせる。突起物を持った人間はあの変わり者を生み出し、何よりも金を鑄造した。居住地である楽しい我が家に帰ると、好んでブディングのカップを6個食べる。安ウィスキーやシャンペンからスタウトや瓶入り黒ビールに至るまでの、冒険に満ちた生活を各時代ずっと送ってきた。笑劇に出て来る毛織物着姿のウィリアム1世、寝取られ亭主の老ヘンリー8世、襲い略奪したチャールズ2世、悶え苦しむトール【北欧神話の雷と戦の神】であるリチャード3世。生まれた時の苦難の末に生き延びた禿鷹に対して、雄鴨が恐怖の叫び声を出すならば、雌鴨の方はこのヤクザ者の復活をひどく嘆き悲しむであろう。月夜の夜に体重を減らす、日没までには胴回りは前より樽のタガみたいになる。(139)人間の自然性を発揮して、彼はニヤニヤしつつ外から見えない世界を作り、そして3箇所牢獄のうちの1箇所を選べという薄紙の通告書をもらうこととなった。猟師たちが雌鹿を追いかけ、船がツバメのように全速力で進み、白い聖衣を着た者が聖餐式用パンを掲げている中、サケが槍で捕獲されるのを誰が一瞥したいと思うだろうか。老いたカヌート王のように追従には毅然と立ち向かい、キンキナトウス【古代ローマの政務官。畑仕事の最中に元老院に呼び出され、敵の蛮族と戦って1日で倒し、その日のうちに辞して、また畑仕事に戻った】のように背を向けて引き返した。父系の祖父であり、母系の祖父であり、我らの父であり、新しいと同様古くもある邸宅に住む、露骨なごますり男である。町中にいる時でも港にいる時でも、疲れた時には、風変わりな格好でしゃがみ込み、ビールのクオート瓶を空けてしまう。枕元ではウィスキーが流れ出ているが、足下ではスタウトが立っている。寝入る前は吃音状態にあり、目覚めた時には完全に頭がいかれている。輝ける朝にはティムだが、喪に付した夜には墓となっている。昔のバビロンにもあった、丸パンのように焼けた最上のレンガを持ってうまく据えようとしても、彼はダブリンに壁を、グラグラするものでさえ1つも持っていないがために、途方に暮れることになる。

答え、フィン・マクール！

2. お前の母親はお前を作った怠け者を知っているのか。

答え、私が私の近視の目を郊外の景色から転じると、これは私の子としての気持ちなのだが、はた迷惑にも夜長々と話をこの司教職履行者であり城壁中居住者でもある人物を、彼女は彼の傍で寝ながら、誇りを持って見ていたのだ。澁刺としているアンの舌足らずの言葉は山を奮い起こし、彼女に対しささやかせるであろう！ またアイスランドの氷山は溶けて火の波となろう！ また彼女が土手にぶつかった時に生まれる強強格の愛撫の詩は、そして高さ

が膝まである彼女の細流のくすぐるような感触は、怒れる大海を膝まづかせ、その叙情詩を一息に体内に取り込ませるであろう！ 御主人様がデーモン人ならば、アンは汚れた女である。彼が見た目に不細工ならば、彼女は美しい。彼が見せかけの人物なら、彼女は尻軽である。その流れは赤褐色で、はにかみながら甘言を弄する。ひょうきんに水をはねかす。彼の舵棒【ペニス】を立たせるために、彼の夢を水浸しにするために【夢精】。情熱的なハンムラビ【バビロニアの王】や冷徹なアテネの市民議会の議員たちが、彼女の悪ふざけぶりを見出せたならば、彼らもまた羽目を外し、悔い改める気持ちなど捨て、自分たちのこれまでの行いを悪し様に言うであろう。この川のために、永久に、一晚のために。アーメン！

3. あの報復を思わせる、1箇所陰りのある白の忌中紋標を飾っている、義理の母親の原型とも言える女に、どの称号がつけられているのか。この紋章においては、蛇がクローバーの下を這い、うろつく鳥たちは群生している。また1人の少女が売春宿に行き、川にたむろするその仲間が1人見出される。その紋章に描かれている場所はウィッチクラフト・ホーロット【魔法の町、の意味】でもなければウスターホルム・ドライシュロッシュ【東の低地にある3つの城、の意味】でもなく、食料雑貨商のハラルズビーでもなく、ワイン店のヴァタンドカン【ヴァチカンを連想】でもなく、ハウスボート・アンド・ハイヴズ【夫と妻、を連想】でもなく、ノックス・アッタ・ベル【憂鬱な夜、の意味に取れる】でもなく、オフエニックス・コールプリンスでもなく、ヴォーン・スクウェア・ルーミック【真四角の一部屋に居住、の意味に取れる】でもなく、エブロー・ダウンズ【プトレマイオスがダブリンに付けた名エブラーナを連想】でもなく、ル・ドゥサー・ル・ミュー【ジョン・ル・ドゥサーは14世紀のダブリンの監督官、ル・ミューは最高の人、の意味】でもなく、(140)ベンジャミン・リー【アイルランドの醸造家ベンジャミン・リー・ギネスのこと】でもなく、ソロミュー・ウァディントン【パーソロミュー・ヴァンハムリーとディック・ホイッティントン、それぞれダブリンとロンドンの市長】でもなく、アントワープでもなく、モスクワでもなく、コリーズ【ダブリンのパブ名】でもなく、ウィアーズ【ダブリンのパブ名】でもなく、アーチ【ダブリンのパブ名】でもなく、スマッグでもなく、ドッチ・ハウス【スコッチ・ハウスはダブリンのパブ名】でもなく、ウーバル【オーヴァルはダブリンのパブ名】では決してなく、グラウンドでも決してなく、スプレンドイド(グラホットあるいはスプレーテル)でもなく、エラット・エスト・エリット【erat は it was、est は it is、erit は it will be の意味】でもなく、ノン・ミキ・セッド・ルチフーロ！【non mihi sed lucifuro は、ラテン語で「私に対してではなく、光をもたらす者に対して」の意味】でもない。

答え、アア、市民よ、お前の肥満が、我らの眼球の幸福

に打撃を与えるのだ！

4. Dで始まりNで終わる(アア、塵と埃、アア、混乱!)、2つの音節と6つのアルファベットの文字を持つ、いかなるアイルランドの首都である都市が(オヤマア、オヤマア!) 次のものを持っていることを誇れるのか。a) 世界で最も広い公園、b) 世界で最も経費のかかる醸造業、c) 世界で最も広い範囲に住人のいる街道、d) 世界で最も馬【競馬】を愛し、最も信心深く、最もアルコールに浸る貧民。では、アルファベットを用い、調和のとれた答えを示せ。

答え、a) ベルファースト。それにしても亜麻色の髪の乙女よ、私の心臓の金色のハンマーが、あなたのためらう胸に再び打ち付けているのをあなたが耳にする時、また【あなたと私をつなぐ】私のリベットの優しいボルトが、あなたの気晴らしになるよう再び働くのを耳にする時、あなたは罪深い嗚咽を漏らしながら身を震わせるが、この後**我々は**急いで馬に乗り、あなたはオレンジ色の花輪を持ち、私は味のいいリキュールを持って、なめらかな道をふざけあいながら、結婚生活という大海に**進むことになるのだ**。b) コーク。愛するあなた、マシュ【コークの1地区】で持てる、素晴らしい【結婚を祝す】鐘の音を聞き、素晴らしい時を過ごし、あなたの元を去るという経験を本当に【他の】どこで持つことが出来ようか。この私はチドリのおさえずりのような柔らかい愛のこもった言葉遣いであなたと婚約するであろう。そして、あなたの細い足首にブレスレットをはめた、愛に満ちた2つの掌や、あなたが口にくわえた薔薇の花とともに、蔓のように緩やかに垂れ下がっているあなたの髪の毛をたたえ、私のいる場を越えた向こう側一面に私の歌声を響かせるであろう。そしてそれ以上の頻度で、軽やかな言葉の滑石をあなたの心に沈めるであろう。c) ダブリン。そう、ドクター・チークスの特別な命令による保養のための、ブルックライン通りにあるジョージア朝風邸宅の芝生を私が手に入れたらすぐに、彼があなたに残してくれるであろう100万ポンドの金や、銅の皿一杯の大豆があるのに、また、比較的戦いに明け暮れ、酒を必要としていた我が人生史上の停滞と酒による過ちの後でも、東側の手にアイリッシュウィスキー、西側の手にジェイムズ・ゲイト【ギネス工場の一部】を持っているのに、そしてまた、アトランタからオコニー川に運ばれたものの中で最も精選され最も安価な発酵したてのバター(更にあなたを元気づける)を、庭で私がまどろんでいる間に、あなたが上手に攪拌してくれるのに、恋人よ、どうして我々が仕合せになれないことがあるのか。d) (141) ゴルウェイ。私は先ずスパニッシュ・プレイスに徹頭徹尾早足で行き、そこで足を止める。メイヨーに行く。トゥアムを訪れる。スライゴの洗練された雰囲気、しかしゴルウェイの優雅さ。神聖なるウナギと列聖されたシャケ。ガツガツしているチャブ【コイ科の魚】、ヒョイと水にもぐるデイス【コイ科の魚】。ロディロン【rodironは「鉄の棒」の意

味】はあなたほどではないわ！ と彼女は小道の一部をはねるように歩きながら言う。abcd) シェンドン教会【ヨークにある教会。聖アン教会ともいう】の尖塔の鐘を鳴らせ。そうすれば我々はクリスマスのミサに集まった人々のところへ行くことにする。我らの卓越したシェンドン教会よ、務めとして、我々が初めて会う、呻き声を出している人々を褒め称えよ。決して決して私の価値と同等ではない我が**5ペンス貨**を、私の名前を出して渡したまえ。

5. いかなるスカンジナビア系のクズの若者が、次のようなことをするのだろうか、汚い携帯用酒瓶に入った酒を人に出す。注ぐ時にこぼれたスタウトを飲み干す。質の悪いヤギから乳を搾り取る。おしゃべりな少年少女を時々怖がらせて追い払う。屑かごから食べ物を拾い上げる。内面は人間なのに外面は天使。汚い水を村中に撒き散らす。新聞とタバコと菓子【を常習】。器量の良くない雑役婦を使っている。教会の鐘の音が鳴っていると大声を出す。悪意を持って足蹴にする。自分のことでは助けを求めて大声を出す、その後の強盗のことでは自分の助けを人に与えることはない。3人の子供を支えることになるであろう。汚物のついたブーツを磨く。夜あらゆる灯火を覆い隠す。死ぬまで年季奉公。砥石を使って自分の短剣を研ぐ。最も豊かな賄いを受けている。神がかりのやり方を持つ好色なる男。おそらく時々彼は貧弱な荷馬車に席を取るのであろう。Y. W. C. A. 【The Young Woman's Christian Association の略】や W. C. T. U.

【Women's Christian Temperance Union の略】や「有限会社ドアステップ」や「ベイウィンドウズ兄弟会社」では抜擢されたモップを使う掃除夫。書き記さなくてもいいような「ウォーター・クローゼット・アンド・サン」や「H. E. チムニーズ・カンパニー」でも、忠告に従ってプラカード係りか厩係りくらいで、完全にケルト語を理解しなければならず、ユトランド半島出身のあるいはノルウェイ人の好ましい奴としてすべての義務を負うが、権利は全くなく、家族は反目し合って、外回りは5回に上り、手附金は得るかもしれないが、手数料はまるきり入ってこず、禁酒主義者を喜ばすプロの大酒飲みで、父親としてはレベルが低く、罪深く、気分屋で、ただのビールの味見役だ、いや、**そうに違いない**。そうじゃないかい。

答え、かわいそうな老いたジョー【歌名】！

6. 広間に掲げられた標語、「家政婦ダイナを呼び出せ」、というのはどういう意味か。

答え、ありがとうございます。今衣服の安売り品がたくさんありますのよ。公園で掘り出したものを、全部私たちのところへ持ってくるという役目を果たしているのです。もしお尋ねになるのなら、床に彼がシミをつけたことは自分では分かっていると思っていました。口に出すこともできます。彼はミドルネームで私を呼びました、ティックって。私はあなたの蜜なのね、【あなたは】蜜を吸う人です

ね、フンフン、蜂さんですよ。誰が蠟燭を折ったのかしら、それに誰が明日の大掛かりなピクニックで食べるクロフサスグリのジャムを見つけたのかしら。アイルランドの天候さん、どうか土砂降りにして下さいませ。(142)ムクドリの鳴き声が聞こえました。鴨の足1本につき5ペンスするあなたのサンドウィッチから、汚れを取り除いている時に。ご馳走ですね。でも、最も植物の病気が流行った数年間のうちから土を被せていたスグリの一番新しい実を食べたのは誰かしら。そしてあつちに残したかと思えばこっちに置いて、キルケニーの猫のテックにあの羊の脚の切り身を盗ませてしまったのは誰かしら。誰が中庭にあのおまるを置いたのかしら、あなたでしょう？ 一体全体あなたは何を使ってロビーの床の端を度々こすっているのでしょうか！ **本当にしょうがない！** お皿一杯に食べるのですか？ 持っていきますよ。ありがとございます。

7. 我々の社会の構成員たる仲間たちはどのような人物なのか。つまり、その構成員とは、ドアボーイとか、掃除人とか、兵士とか、詐欺師とか、搾取者とか、のらくら者とか、御者とか、犬屋とか、旅行者とか、マッシュルームの嗅ぎ手とか、皮膚が青あざとなった放浪者とか、火薬を使用する陰謀家とか、クリスマスの祝儀を渡す者とか、そして各塩水性湿地、ドニーブルックの野原、リユーベックの畑、ラウンドタウン【ダブリンの1地区であるテレニューアのこと】の野、クラムリンの草地から来た人々、しかしながらキメージの野、アシュタウンの野、カブラの野、フィングラスの野、サントリーの野、レイハニーの野、彼らの野、ボルドイルからも来た人々、こういった人々から次のような人々までのことである。1年中皆に期待されている新人で、回顧的推論に基づく情熱の持ち主であり、様々な意見を出し合い、互いに論争しあいながらも、預言を是非実現しようと声を合わせる者たち、あるいは、略奪による快樂というパンの皮をむしゃむしゃと食べ、悲惨が陶酔の中に入るように蜂蜜酒を飲み干し、正当化を実際に行うことであらゆる悪を大目に見、いかなる善も満足がいくまでけなす者たち、あるいはあの根源の力としてのデーモン、即ち、夜ごとの不安、2週間ごとの私通、月ごとの思いやり、年ごとの気晴らしといった4つの管理装置が行使用する法に支配され、拘束され、惑わされ、駆りたてられている者たち、つまり、熟考しているときの Doyle たち、しかし刀を身につけている時のサリバンたちも、そしてメイティー、デディー、サイモン、ジョーン、ペドゥハー、アンディー、バーティー、フィリー、ジェイムジー・モルそしてトム、マットとジェイクス・マック・カーティー【メイティー以下12人の使徒に関わる名前となっている】などの人々である。

答え、モルベウス【ギリシャ神話中の眠り、夢の神】！

8. それではあなたのマギーたち【誘惑する女を表す】はどうしているのか。

答え、彼女たちは愛している、笑いながら愛する、泣き

ながら笑う、匂いを嗅ぎながら泣く、微笑みながら匂いを嗅ぐ、憎しみながら微笑む、考えながら憎む、感じながら考える、誘惑しながら感じる、大胆に試みながら誘惑する、待ちながら大胆に試みる、受け取りながら待つ、感謝しながら受け取る、求めながら感謝する、愛を知ろうとする中で見捨てられるために生まれたかのように、生きようとして、策略を練って妻となろうとして、薔薇の花輪といういつもの計略によって苛立たせようとして、(143)家では半ズボンをはき、しかしうるう年が来ると、4頭立ての馬車に乗って、私の心をついばむ可愛い女は、もう一人の男を拾い上げる。

9. さて、改めて、咲いている花々のような言葉のパノラマに再び戻ろう。多くの時間を痛風の手を使ったり、おぼつかない足取りで空しく空間を移動したり、鮮度の高い夢の背後で、デンマークのキャメロットに住む王子【ハムレット】に負けず劣らず不仕合わせな境遇に陥ったりして、すすけた社会の中の責務によって当然のごとく疲労してしまった人間が、実際に過去の不毛なある時に、不安定な心の沈んだ状態の中で、彼の存在過程の中の生活史の歩みが頼りとしてきた、【存在過程の】構成要素となっている傑出したあらゆる権利と方策、つまり、猛烈な恐怖心から発せられる言葉のとどろき【夢による寝言】、結び目のような目の再結合【再入眠】、精神を崩壊させる安楽の再崩壊【起床】、すべての安楽の全体的垂下【入眠】とともに、天国に対して古から抱かれてきた希望に関わる近視眼的な見解を針の目を通して与えられたならば、そしてこのような者が、時間を忘れた夜がカモメの鳴き声を聞いて、ルーカンの夜明けに気づくまでの間に、また押し黙っている行人人たちが夜、女たちと一緒に寝ようよ、といった場所に行き着く間にさえ、何が主要で、何故かはその対に過ぎない、ということ、そしてまた、心を響かせ合いたいと思う相手、つまり驚くべき者たち、愚かな墮落しつつある者たち、縮れ毛の頭の周りから虚無の光が差しており、それがよく彼らに似合っている者たち、子宮の中でもがきあい落ち着かなかった者たち、酔い潰れるまで互いに張り合うすべての者たち、ダイスをまた振って勝つ、アア、災難だ！ダイスを振って負ける、アア、何と際立っていることか！しかしヘンギストは少しばかりホルサの鼻のあたりが似ている【ヘンギストとホルサは5世紀のジュート族の兄弟。2人でイングランドを侵略】、ヤペテは口のあたりがハムと符合している、だが紡いで作り出された虹も褪せて薄くなる、薔薇のような赤も、激しい橙色も、黄色も、緑も、青も、藍もその端から消えてしまう！紫も死に絶えるのだ！といった者たち、こうした相手の者たちと一端折り合ってその相手に溶け込むにはどうしたらいいか、ということ、これらのことをすぐに知ることができるのであれば、この夢想家は何を夢見ているように思われる自分自身の姿を見ているように思われるのか。全くつまらぬことだが。

答え、万華鏡。

10. 憧れ以外の苦い愛とは何だろうか。引き寄せ役の愛の妖精は最後には煙に戻ってしまうのだけれども、それまで続く短い燃焼以外の辛い熱烈なる恋愛とは何だろうか。

答え、【イシーとなったショーンが鏡に映っている自分自身に対して語っている】愛するあなた、もちろん私は知っています。でも聞いて、大事な人。ありがとう、あなた、愛とは素敵なものです、ネエ、心地よいものです。でも、可愛い人、噂には気をつけてほしい！天使のようなあなた、あなたはなんて綺麗な手をしているのでしょうか、爪をかじらなければいいんだけど、あなたが私のことを恥ずかしがっていないとは思議なことじゃありませんか。ブーさん、完全な子豚さん！少したったら肘でつついてあなたの注意を引くことにしましょう。きっとあなたは彼女【ALP】の化粧台から彼女の1番いいペルシャのクリームをとって使うでしょう。(144)肌が最高の薔薇色に輝くように、絶えずそうなるように。私は彼女のことが分かっている。私を蔑ろにしている、そうでしょう？あらゆる細かな点まで私はお手入れをします！1日に3度クリームを塗ります。最初は彼女がシャワーを浴びている時で、ティシューで拭きます。それから身ぎれいにした後で、もちろん寝る前も。確かに、そうした時、私は社会主義者の政党に入っていた、サッカー選手の克蘭カシーという既婚者のことを考える。黒鉛のような胸をしている。ネエ、ポルターガイストさんだ！あれはあなただったのね、ゴールキーパーさん、それに14人のフルバックのボールに群がる人たちや、そしてハーリングのスターたちも、あるいは彼らがスペイン系であれ、イタリア系であれ、どんな人たちであれ、ある下品なお館様のお屋敷で、太鼓を鳴らして大騒ぎしていた。というのも、バルドイル【ダブリンの1地区】のど田舎じみたスプーンレースに勝ったから。私のケルト語の口調は賞賛に値すると彼は言った。彼は私を彼の最初のよき縁組のお相手【セックス】とする機会と方法を探し求めている。でも妬み心を持ってプレーしてはならない！すべてにおいてつまらなくなる。スペイン的というのはこんなものです。どうか、身を低くしてもうちょっとこっちに近寄ってきて。ただただ楽しい！ロメオとジュリエットのように。長い間こんなにもトルコ人のように感じてこなかった！あの美味しい、魂を持ったチョコレート【アフリカ系住民の意味にもなる】のことが思い出される。異常ね！ネエ、あれは何なの、下等な代物に過ぎない。フン！3ペンスだって払うものか。ペッ！その通り、ちゃんと作りなさいよ！馬鹿にしている。プッ！イランにでも帰りな。プーッ！何故肘でつつくの？いや、つついたと思っただけ。最愛の人、聞いて！もちろんしみつたれのあなたが私のストッキングのサイズを覚えていてくれたことに、感謝し過ぎるほどの感謝をしています。あなたが私のズボンあたりを弄っていた時に、私が度々口に出したお願いですものね。でも私という人間に対

する理解をもっと広げて、私が忘れないでいるうちは忘れないでね。私のバラバラの記憶を結び合わせると、私の質の悪い靴は、すぐに月末には再び踵が赤みがかかる。しかしあのおバカさん、ウスノロさんが買ったものをご覧なさい。そして祝福に満ちた天に対してお答えしますが、新しいあの洒落たガーターのことを、いつもいつも思い出すことになるでしょう。私は誇りと手袋の点ではまさに1番だし、それでもって魅力溢れる唯一の人といつもなっているのよ。たとえ、私の生きる糧となっている私の若さよりも100万倍もの年を彼がとっているとしても。尊師ポールキングトン氏のことよ。一時売春周旋業をやっていた。マザー・ブラウンが不法なお相手を彼としてくれと私に頼んだことがあったわ。彼女の10月のマグ【Brown October Aleという歌の名からビールのこと】を持ってね（あれはまっぴら）。真っ白な老いたウズラクイナのように、彼は脛という車軸をキーキーいわせて、歩き回っていたわ。飛行機操縦士でもありダブリン湾の小型ヨット操縦士でもあり国防義勇軍兵士でもあり道標製作者でもある。本当にありがとう、私は大丈夫よ。ハ！ ネエ、あなたのちっちゃなペニスに気をつけてね。お口に含んであげましょうか。ママム。指を入れるには変な場所ね【オナニー】！ 本当にごめんなさい、誓って言うけど、本当に謝っているのよ！

(145)何もつけていない誕生の時のままの私の姿を絶対に見てはダメよ。どんなに彼女【イシーが夢想するショーンの相手の女】が男にウィンクして引き付けるような女だとしても、彼女の白い手の皮膚がハンセン氏病にかかって剥がれ落ちればいいのに。身なりを整えているところを見ると、きっとあなたはその後彼女とイチャイチャして、ガラスの宝石を彼女に嵌めさせ、彼女の下部に飛び込んでいくのね！ ハハ！ 彼女のことを怪しいと思っていた！ 彼女なんか消えてしまえ！ 石女の雌ヤギは銃殺にしまえばいいのに！ だから彼女が「紅茶はいかが」と言うのと、私は「ありがとう、でもとても心配だわ」と言うの。私が彼女のことを単なる変人と思っても、間違った受け取り方をしないように願ったわ。私が硬い泥炭を口にする女の子だとしても、私は感傷的すぎる女の子ではないわ。私の最もかわいい人、もちろん、私には分かっているんだけど、あなたは学があって、思いやりがあり、野菜があんなに好きだし、薄切り冷肉の盛り合わせを欲しがると、あなたは！ どうか黙って僕とお近づきになってくれませんか、ですって！ 未熟なリンゴね、狡猾な小蛇ね、新し物好きの自転車乗りね！ 私の生理用ナプキンの方が【あなたのペニスよりセックスに対して】生き生きしているわ！ ネエ、誰があなたを涙で溺れさせたの、あなたは書くことについてもパツとしない人間なの？ 悲しみがあなたの誇りの門の前を通り過ぎたのかしら。かわいい人、私の足がクローバーを踏み潰したのかしら。キンボウゲの花はそうだとおっしゃっていたわ、ギュッとだきしめて、いまいましいったらありやしないから。そうすれば、私の最高に

素敵なお人、私のキスがあなた【のペニス】に生気を取り戻させてあげる。おせっかい屋さん、あなたを苦しめてあげる。恋愛マナーを蔑ろにすることなんか、私へいちゃらよ。大好きなあなた、あのことで私はあなたを叱ったのかしら。私の目を見れば私が優しいということが分かるでしょう。目が眩んで真の私を読み取ることが出来ないのかしら。私の笑いかみ殺してよ、私の涙を飲み干してよ。私の中に一杯注ぎ込んで、私を呪文でしっかりと縛って、私が気を失うくらいに私にぶちまけて。私を非難する人がどう思うとかまわないわ。私の愛らしさを受け入れて、今、ここで、私を、ずっと永遠に！ 通りすぎりのおまわりさんや、マグラスさんや、あの郵便局にいるブーツを履いた乞食と違ってやっちゃ危険性が私にはある。私が情欲の炎に包まれているですって？ アラ、ごめんなさいね。何だったのかしら。ネエ、あなた、何かしゃべった、つまらないことを？ 男声合唱の音楽や、祈禱書からほとぼりした文句が一緒になったシェイクスピアからの詩を普段よりもっと多く読んでみて。私が不道德の不滅性っていったことを信じていたらどうする？ アア、愛には息が詰まるような戦いが伴うといったことや、最も可愛い者こそが生き残るといふことをあなたは言っているのかしら。そう、私たちは家で度々雑談をする。1週間に1度、自分を改善しようと、目覚ましい内容のあの『新しき自由なる女性』を、非常に強い関心を持って読んでいます。代金を払ってくれる貴婦人とやったサープリス【聖職者の白い法衣】を着た男の人のことを考えると、いつも一番心が揺らぐ。でもできるだけ信仰深くなるようにしている。地獄の火のことなんか考えるのを根こぎにして、私たちの生活をスリリングなものにすることを彼に教えてあげましょう。ドラキュラだって夜遊びをするのよ。後生だから顔を赤らめないで！ フン、シャッターを下ろしてよ、そうすれば愛すべき人なら、ソロモンのような修道士だって打ち負かしてあげるから。神聖なる虫けらさん、私の高ぶりが飛び上がり、あなたと2人でのセックスで何とあなたを燃え上がらせることでしょうか。この時私は体の中の燃えるトーチライトを使い尽くすのです(146)（私のあそこを崇めて、それから消えていなくなってしまうのかしら。一体何故？ 女のため？）。もしするのならあなたのヘアが私の上で踊るのです。もし私があなたのことを笑ったら？ いいえ、最愛の人、崇められているのなら、私はあまりあなたを怒らせたくはありません。全くそうしたくはありません。神様がママのために、高さが腰までの、地味な「お母ちゃん」用コートをお造りになったのと同じくらい本当のことです。というのも、私の夢見る愛らしい人、理由は私だけの普通の女の子だからに過ぎません。そしてまた、年老いた誰かさんが周りにいないからです。私がいなくて寂しがる私のトリストラン、私たちがいないところで私たちに攻撃する、あの男色のカトリック教徒の法螺吹きの子のような人が、何て気に触る奴なんでしょう！ 聖具室とい

うのは、あの【セックス】ためがあると奴は思っているんだわ。聖職者の心の中の願望というのは、何て虚しいものかしら。聖職者って、未だ姦通を犯す技を行使しようとしているんだわ。自分たちのみすぼらしいガウンが、金髪のスーに自分たちの顔を忘れさせるだろうと確信して！ 意志軟弱な酔っ払いたちめ。「聖なるマルガリート、我々に祝福を」を口にする監督者め。どうか彼らが今までの型【女関係】を捨ててくれるように。さもないと、あの土地一帯、医学を使った暗殺方法【墮胎】を持ったベルシャザル【バビロンの最後の王】やサルダナパロス【アッシリアの最後の王、贅沢な生活で知られる】のような人が出てくるでしょう。しかし私が社会人として行動する鍵となる投票権を手に入れるまで待つて。そうしたら、私たち女から相手にしてもらえぬ服をいつ着たらいいか、彼に教えてあげましょう。あの陽気で子守唄でも歌っていればいい、つまらない女、イザボーが浸ったような虚飾を満たすために。そしてまた、いくじなしのランスロットさん、私はあなたのことを考えるということを考えることがまさに嫌だからです。そしてまた、愛する人、最も崇めている人、言うまでもなく、私はフレンチ・カレッジの技師を夫とするよう定められていたから。アア、何ということでしょう。この時、あなたが読み書きと切っても切れない関係にあるのに、彼は私を自由にしておいてくれるという契りをまさに交わします。でもこうしたことは長く続かなければいいのに。というのも、彼は私に狂ったようになっていて、私の方は飛び跳ね回っているから。それはエロスの救い主である彼が、ボートから浜辺に私を連れて行った日からのようで、その時私は彼の肩に金髪の髪の毛を1本残し、手と心をその柔らかさへと導こうとした。本当にごめん！ 許してね。自分が口にした、言葉を発する私の舌から漏れるあらゆる大事な言葉を私は耳にしていたのよ【相手の言うことを聞いていなかった】。さもないと、私たちのお婆さんのことをあなたが何とと思っていたのか、どうして知ることが出来るの？ 私はただ化粧水を捨てたかどうかを考えていたの。ともかくも、私の腕を受けて、そして乙女の首を。敬具。あなたの口を私の口の方に寄せて、もっと、一番大切な人、もっともっと！ 私の宝物さん、私を喜ばすために。駄目よ、私はするつもりはない！ シッ！ 何でもない！ どこかで叫び声がしたわ！ バイバイ！ 私って食えない女なの。耳をすませて、青二才さん、ライムの木の下の方を。ほら、セコイアの木が皆墓石に寄りかかっている。それらはたじろいでいる。偉大な老人ね！ セミさん、だから鳴いてみて、チーチーと、頼むから！ 小さなバスドア【劇場の舞台裏と観客席を連絡するドア】がある。だからあなたが舞台に出る前にあなたのところへ行こう。(147)そうすればあなたは私の前面の張り出し舞台【舞台における客席前に突き出た舞台】ににいることになる。恋に夢中になって、彼は恥ずかしがっているのか。観衆がいることは忘れなければならない。天使さん、私は困

っているの。抱きしめて、悪魔さん、あなた！ 私たちだけの内密の話。聞いて、どうか！ あつと言わせることよ！ 4人の裁判官全員には職務を遂行させておきなさい！ 大声で吠える人と11人の酔っ払いたちは【足すと】12人【使徒の数】の国民義勇兵にならせておきなさい。谷の川辺の森の鳥たちよ、この飲兵衛の老人たちは皆、互いに対峙しているパブ・ミカエルとパブ・ニコラウスで、広い通り沿いの人々が騒音とつまらぬ話をまき散らすことを望んでいるのです。そして我が28人の同級生の小鳥たちは踏み越し段に止まって待っている！ 彼女たちのリズムミクな動きがどんなものかをお示ししますわ。そうすればこれが私だけの考えかどうかが分かるでしょう。彼女たちは皆人に喜びを与えるために外に出ているのです。待つてください！ 本当に！ みんな清らかな女の子たちよ。ヒイラギのような女の子もいれば聖なるツタのような女の子もいる。エヘン！ ゴホン！ エーダです、ベットです、シーリアです、デアリアです、イーナです、フレッタです、ギルダです、ヒルダです、イータです、ジェスです、カティです、ルーです（私が彼女たちの名を読み上げているのと同じくらい確かに、彼女たちのおかげで私は咳が出る）、マイナです、ニッパです、オプシィです、ポールです、クウィーニです、ルースです、ソースィです、トリックスです、ウーナです、ヴェラです、ワンダです、ジーニアです、イーヴです、ズルマです、フィービです、セルマです。そして私です！ 少年院の少年たちが教会の中に入っていこうとしています。私たちも皆最後の晩餐会の出席者のように告白をしたのです。そして乳母のように優しい神の摂理から、大罪への贖罪行為によって赦罪を得たのです。この少年たちの花嫁が結婚する時、私の鐘も鳴り始めるでしょう。薔薇の輪っかもリンリンと！ その時誰もがそれを耳にするでしょう。そして彼女たちの【結婚への】願いは、私の考えではずっと遠い先にある。でも彼女たちの名前がリストの中に入っているかもしれないので、彼女たちの心には難問を植え込んでおきましょう。お目付役の保母さんたちとともに外出している時に。世界中の元気な鳩たちが、ラブリボン【縞模様の薄織りのリボン】を巻いた首の周りに、私のメッセージとしてのヤドリギ【の枝】と、清らかな女神たち1人1人に渡すべき、私が作ったケーキの一片をつけて飛び立つでしょう。私たちはそれらみんなと日曜紙をとっておく。アア、私の愛する人！ 愛の光の中で。駄目、私はフィブスボロの教会のドームや、セント・アンドリュー・アンダーシャフト【ロンドンの教会】にかけて、そしてまた、日常の世界から得られるもの、夜陰といかがわしさに満ちた闇の世界の中に持っているもの、また他の不可思議な世界の中にあるもの、こうした秘密裡に持っているありとあらゆるものにかけて、あなたに【誰にも言わないことを】誓います！ 近づけて下さい、あなたの。目を開けてはいけません！ サア、大事な人、開いて、あなたの唇を、いい子だから。あの滑稽な思

い出のある、開いた唇を使ってした、ダン・ホロハンとの甘いキスのように。そう言えば、あの初めての晩、スモック横町でフランネルの下着姿でダンスをした後、愛の証を示しながら、彼が実戦経験をしてくれたということ、私が顔を赤らめてしまい扇で隠したことを私思い出したわ。私の可愛い人、舌は溶けるということをお前が教えてくれたあの頃のことよ。彼は私たちのような耳を持っているのでしょうか、黒髪の方は！ 沈黙した気取りやさん、こういうのって好き？ この相変わらずの私や私の生き方や私の愛って楽しいと思っているの？ 私のささやき声がなぜ好きなの。それは素晴らしい心地よくない？ (148)でも随分とあなたを困らせていない？ 私が、私がよ！ ゾクゾクする感じになるまでいいこと教えて！ 約束は破らないわよ。まだ私は味わっている、本当よ！ なぜこういった暗闇でやる方がいいの、もし聞いていいのなら、私の素敵なお兄さん？ シッ、シッ！ ウサギコウモリたちが飛び交っている。駄目よ、最愛の人、なぜあれは悩ましく感じさせるのでしょうか？ でも、やめてね！ ああしている時ひっぱたきたいのね、違う、ひっぱたかれたいのね。喜びあふれるあなたの唇に、私の愛する人、気をつけて！ 中でも私のこのデュベティン織りのドレスには気をつけて！ 金色の入った銀色で、王女様のような雰囲気を持っている最新のセクシーな色調よ。というのも、ラトランドブルーは流行遅れだからよ。だから、だから、私の大切な人！ アラ、値段なら分かるわよ、あなた！ そんなこと聞きたくもないですって！ ホラ、シーブ通りのあの男の子も知っているわ。ネエ、誰のものだったか教えたならば？ エッ、ここに裂け目があるのを買わされたのかしら！ あなたはあの文字入り菱形キャンディー【菱形から女陰を連想？】のことを考えているの？ 何ということでしょう！ 私ひどく恥ずかしいわ！ 私はそんなことはしない、ネンネちゃん、きらめく宝石全部をもらっても。ベッドで私にウィンクするのが目に入ったら、彼らにムチをくれてやる。私の婚約者さん、私は全くそんなことはしなかったわ。イヤ、そうするつもりはあったし、そうしようと思っただけです。も。シッシッシッ！ そのように始めてはいけません、可愛い人！ 作家さん、新しい黒鉛の芯で彼らの存在意義を他の人たちに説明するための事柄を、あなたは必要以上に知っていると思っていた。あの男性は古のブライアン・ボルの時代からある、危険の潜む、マスの泳いでいる、あの忌々しい川の中にいる、奇怪なよく見かける魚に過ぎない。ゴート族や西ゴート族は私たちを祝福し、彼女を大目に見てくれるでしょう。背中に瘤を持ったあの男のことを考えるのはやめましょう！ すみませんが誓って言います、愛する人よ、鉄を打ち付けるような雷鳴の中を飛ぶセラフィムに賭けて誓って言いますが、このアルプス産の腕輪に賭けて、このようなことをするつもりはなかったのです。私たちの長い悲しみの人生の中で、あなたは以前から1人の女の子にも近寄って話しかけたことが

本当になかったのですか。なかったのね！ お手伝いさんに対してさえないかったの？ 何と素晴らしいことでしょう！ 私だけの最愛の人、あなたが話をする時には、もちろんあなたの言っていることを信じますわ。是非やってみようから、アア、あれを是非やってみよう！ キス、キス！ わきまをえなければならぬわ。あれは絶対に駄目、さもないと涙を流す顔を記憶することになる、察してください！ 比類なく汚れなき私の全人生において決してあれは駄目。でなければ、今この時の結末は苦いものとなるでしょう！ 汚れのない状態で私はあなたに求愛します。そして私の絹のような乳房でもって私はあなたを縛り付けます！ 常に、愛する人、愛して、もっとずっと一杯！ 最愛の人、いつまでも！ シーッシーッシーッシーッ！ 幸運が続く限り。笑っちゃうわね！

(注)

『フィネガンズ・ウェイク』の原典は、James Joyce, *Finnegans Wake* (New York: Viking Press, 1947)を使用した。本文中の()内の数字は、*Finnegans Wake*の原典のページを表す。【 】内の日本語は、該当箇所の内容を筆者なりに解説したものである。()内の日本語は、原典の()内を訳したものである。太文字の箇所は、書名と曲名を除いた原典のイタリック体の箇所である。

参考文献

- 1) Anderson, John P. *Joyce's Finnegans Wake: The Curse of Kabbalah*. vol. 1. Boca Raton: Universal Publishers, 2013.
- 2) Campbell, Joseph, and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key to Finnegans Wake*. rpt. New York: Viking Press, 1944.
- 3) Glasheen, Adaline. *A Third Census of Finnegans Wake*. Evanston: Northwestern University Press, 1963.
- 4) Gordon, John. *John Gordon's Finnegans Wake Blog*, Website. 2020.
- 5) McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Revised ed. Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1991.
- 6) Mink, Louis O. *A Finnegans Wake Gazetteer*. Bloomington and London: Indiana University Press, 1978.
- 7) Rose, Danis, and John O'Hanlon. *Understanding Finnegans Wake: A Guide to the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982.

8) Slepon, Raphael, ed. *Fleet Search Engine in The Finnegans Wake. Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.

9) *Glosses of Finnegans Wake in The Finnegans Wake Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.

10) 宮田恭子訳、『抄訳、フィネガンズ・ウェイク』集英社、2004年

11) 柳瀬尚紀訳、『フィネガンズ・ウェイク』I、II、III、IV、河出書房新社、1991年

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』
第1部第6章の概要(1)
(126.1~148.32)

大島由紀夫

(東京海洋大学名誉教授)

要旨： ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第1部第6章126ページの1行目から148ページの32行目までを訳出した。逐語的に訳した箇所もあるが、内容をくみとりながらその主意を表した箇所もあり、「概要」といった題名にした。この第6章は、全体的に問答形式となっている。質問はシエムが設定したもので、実際に質問するのは12人の使徒であるが、その中でも4博士が中心的な質問者となっている。応答者はショーンである。彼は質問に応じて、色々に人格を他の登場人物の人格へと変える。今回訳出した箇所における彼らの問答から分かることは、様々な事柄で相反する面を見せることのあるHCEやALPの人間性であり、互いに他の異性への関心を示しながらも、根底では強固な絆を保っているHCEとALPの夫婦の関係性であり、色々な事柄に興味を示す多感な少女としての、彼らの娘イシーの内面意識であり、考え方である。

大島由紀夫